

研究機関名：旭川医科大学

| | |
|--------------|---|
| 承認番号 | 17030 |
| 課題名 | 当院における肝炎ウイルス検査結果の後方視的解析 |
| 研究期間 | 倫理委員会承認日～ 2022年 3月 31日 |
| 研究の対象 | 2014年6月から2017年5月までの間に旭川医科大学病院に通院または入院し、肝炎ウイルス検査をうけた方、及び外来点滴センターを利用した方。 |
| 利用する試料・情報の種類 | <input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢、性別、診断名、治療内容、既往歴、受診状況、肝炎ウイルス検査結果等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| 研究の意義、目的 | <p>ウイルス性肝炎は国内最大の感染症と考えられ、長期間の経過で肝硬変、肝癌へと進展します。近年ウイルス性肝炎の治療は著しく進歩し、特にC型肝炎ウイルスはほぼ100%治癒できる疾患となり、B型肝炎ウイルスもコントロールが可能となっています。しかし、国内には350万人の肝炎ウイルスキャリアが存在し、140-200万人が肝炎ウイルスに感染していることを知らない、または定期受診をしていないと推測されています（厚生労働省）。今後は効果的な治療を受けるために患者の拾い上げが重要な課題と考えられています。また、北海道はHBVキャリア数が全国2位であるとされ、癌化学療法や免疫抑制剤によるHBV再活性化予防対策が重要です。</p> <p>このような背景から、当院の肝疾患相談支援室において平成27年6月から院内の肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨を行っていますが、本研究では受診勧奨後の受検、受療の状況を明らかにすることと、当院外来点滴センター利用患者におけるHBV再活性化対策のための検査実施率を明らかとすることを目的としています。</p> |
| 研究の方法 | 2014年6月から2017年5月までの間に旭川医科大学病院に通院または入院し、肝炎ウイルス検査をうけた患者、及び外来点滴センターを利用した患者を対象に、年齢、性別、診断名、治療内容、既往歴、受診状況、肝炎ウイルス検査結果、肝機能を含む血液検査結果等を解析します。 |
| その他 | |
| お問い合わせ先 | <p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> |

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 - 1

旭川医科大学 内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野

研究責任者：澤田康司

0166-68-2462